夕刊
磐城新聞
十一月二十八日發行
定價 一ヶ月 金六十五錢（郵稅拾五錢）
發行所 磐城新聞社
日曜祭日翌日休刊

好間の炭鑛研究
發達史と現狀及將來
吉川生

(16)

ル、小田炭坑株式會社 萩原鑛業所、社長萩原申八氏

本坑はもと白井遠平氏の經營せる前述の好間炭坑の鑛區で大正四年六月一日全經營を古河合名會社に讓渡され、大正十年六月その一部の第二斜坑が小田炭鑛株式會社(社長小田吉次氏)に讓渡されたもので後昭和二年七月萩原申八氏社長になつて現在に至るものである

依而當坑の生命とする所は讓渡された第二斜坑の上下の炭層の地域であるが上層は過去二代の經營者によつて死牟稼採炭しつくされておつたために、前經營者より引受けた多數の使役坑夫を控へ炭鑛界の不況のために全く社況の困苦をつゞけたが、會社側の温情と經營宜しきを得た爲に、企業者も勞働者も共に塗炭に苦しみながらも、使役者の最も恐怖の的である馘首もなく閉坑の悲運にも遭遇する事なく、然も殘れる上層炭と下層炭の大部分の新山に對して、昭和坑、新斜坑等の新坑を開鑿し更に最も不況に苦んだ昭和七年には埋藏量多く良質炭である層炭の坑部及下層炭に對する大企業を計劃し昭和八年秋にはすでに完成し、現在再生好況の冬の需要期を控へてまさに更生の意氣に燃えるの感がある。一大當の採炭量の增加も內容の確實性の增加を物語つてゐると共に內容充實の機運に向つてゐる事を物語つてゐる

從業員

イ、前に古河坑で述べた様に此の坑の總從業員は手掘採炭の炭坑としての內容を示してゐる。勞働が機械使用の山よりも樂なだけに坑夫の素質なども劣つてゐるのは免れない事である。此の事については古河坑のところに於て詳細に述べた筈である

機械夫の人員は古河坑に比較して非常に少いのは手掘のためであらう

採炭に從事する先山夫後山夫の總計三九五名は全從業員五五七名に對して九%に相當し、古河坑では全從業員八八二名に對して二四六名、二八%でその半にも及ばない狀態に機械山の能率の向上は實に刮目に値するものがあるが此の故にすべてを機械山には爲し得ないので、そこには炭坑それ自体の過去の經營法とか、鑛區の廣狹とか、炭坑の年齢とか、その他種々の事情を考慮せねばならぬ。それでも現在當坑でも隅田川坑でも數臺の截炭機は使用してゐるから將來は機械山の傾向を帶びる事が多くなるだらうと思ふ。そしてそれが經營法の改善といふ點からも當然の歸結であらう

ロ、從業員の分布は古河坑の一府一道二十四縣にわたつて居るのに比し、當坑では一府二道三十六縣で反つて廣範圍に亙つてゐる。遠方より來てゐる人々は坑夫支柱夫等の炭坑の重要職である專業的傾向を示し永久的な傾向を示してゐる。朝鮮人を六名も使用してゐるが古河坑では社則として之を使用せぬ事になつてゐるが隅田坑では使用してゐる鮮人も賃銀は同一な單價で働いて居りよく內地人とも融和し日本語も通じるし勤勉でよく働いてゐる

ハ、隅田川坑では從業員については質的な記載をしなかつたが手掘山として本坑と大同小異と見てよからうと思ふ

炭鑛勞働者の適齢として二十一及三十才が最多數を占めてゐることは古河坑と同樣である

二人集

『薬餘吟』　兒玉柴門

○吹き入る風ひた寒し硝子戸の破れ氣づきて繕ろひにけり
○消殘れる雪汚れたる澤徑にじしやの木の芽ふくらめる見つ
○若芽ふく落葉松林に霧雨は音ともなく降りゐたりけり

『冬日』　遠山都

○山谷に淵れて落ちくる瀧水はさむざむと映ゆ冬木淺るる日に
○瀧みづのしぶきに濡るる岩の面水草生ひて冬を青めり
○小鳥らの食みこぼししか青木の實淵へ下る道に凍りつきをり

潮聲硯滴抄帳　十月集

雜詠　當季　天野雨山選

遥草の實のはげしき雨のありにけり　春光
初雁やはろ／＼見ゆる峯の塔　文狂
夕野分軒に雀のかたまりて　石城
熟れ柿に目白きて鳴く垣根かな　雪水

加章　雨山

富士見ゆる空の茜や秋の風
さわがしき中洲の芦や居待月
水霜のしるき礎や下り梁

趣味の科學
東と西
大平秀之助 (4)

斯く計算し來ると一見東や西は空間的或は抽象的觀念の樣であるが、量を具へてゐる或物でなくてはならない。

我々は地球の構成分子として、一日約一萬里の巨大な圓周上を回轉運行する運動体であるが、地球と絶對の運動なるを以て我等と大地とは靜止せりと感じ、反對に太陽が東より西に回轉を續行する樣に思はれる。巨大な距離、三千八百萬里の遠くより望見するを以て地球の三十三萬倍もある太陽は空間に小さな存在として圓に回轉する樣に見ゐるが、圓が大きくなれば其の一部は無限に直線に接近し從つて其の運動体も方向を有する樣になる。太陽と地球との二つの限りに於ては例へ地球が動いてゐるにしろ、地球が靜止して太陽が動いてゐると考へていゝ、太陽は東に昇り、西に沒し太陽は巨大な圓を畫いて地球表面、即ち平地視界の兩端、東と西との方向を生せしめる

圓が次第に小さくなり(勿論大小は相對的に決せられるが)其の回轉する運動体が絶へず方向を轉換すると、東とか西と云ふ方向も無くなる。之が極短なる場合として原子を構成する電子の如きに至つては極めて小さな圓周上を一秒間の中に萬億回回轉するので其の方向も認め得られない。從つて方向を有しない運動即ち靜止する物質の樣に觀ぜられる

之を電流に例ふれば、プラスをマイナスとより成る電流回路が、同時に消えて電氣エネルギーが新しい物質となる、電流はプラスよりマイナスの方へ流れる。光は一秒三億米の速度で太陽より八分にして地球に到達するも、波狀を爲してエネルギーが傳達せられる結果、其の進行を中止して回轉運動に轉する時は直線運動に比し、其の方向瞬間的に變ずるを以て靜止せる物質となる

病床の友
平町　山田ひろし

暗い灯に蒼白い顔して
病床に呻吟してゐる
彼Yの姿は實に悲慘であつた
何時もほがらかな
滑稽じみた顔つきして
流行歌を唄つてゐた彼とは
まるで別人の樣だつた
力ない言葉で『幸福を奪はれた
毎日苦しい涙と限りない
惱みで
日が暮れて行くよ』と
とぎり／＼に語つた彼の
言葉が
腦裡に浮かんで來る
彼は今頃病室に泣いてゐるだらう
可憐な妹にそして慰められてゐるだらう
病床の彼の境遇を聯想した時
急に仕事が嫌になつて
行つて思ふ存分慰めて
微笑せてやりたい樣な氣がして來る
Yよ悲しまないで早くよくなつて吳れ
そして朗らかなもとの姿を
早く僕に見せて吳れ
それが何よりの樂しみとして
神に祈つて
待つて居るよ

社會の今日

11月29日

△幕府三千石以上の者を選拔の上英佛留學を許す(慶應二)△名匠落語家柳家小さん死す(昭和五)△米國問題の言辭無根を釋明し事件落着す(同六)△我軍は蘇炳文軍大討伐を開始す(同七)

○

重ね着や番頭一人大火鉢　山巴

道のべの竹葉の霜に朝日さし、小鳥よくなく冬の山科　尾上柴舟

講談
幕末神風組
(68)　土生太郎作　高根秀浩畵

施風陣 (七)

ドサッ!、といふ地響き

續いて駈け寄つて來た四五人の黑影、それは佐吉の手のものである

繩梯子をたぐりあげようとした一人が、誤つて足踏み辷らして顚落したのだ其の物音に驚いた三四人が足音を忍ばせて駈けつけて來たといふ次第

落ちたのは足首をしたゝかに打ちまげたらしい、しつかり立ちあがる事が出來ない鬪はざるに飛んだ手負ひだ

『だい、しつかりしろッ』
『何だ是しきッ』
『ナニ立てぬと、それ手を貸してやる』
『ア、痛ッ!』
『なんだ腰拔け奴』
『なんと云はれても、足首の力が拔けてしまつた。足の雁首がどうにも痛んで仕樣がない……』
『だらしがないぢやないか しかし仕樣がない、では貴公はそこの塀際に暫く憩ふてゐるがよい、だがどんな事があつても單獨行動は絶對に罷りならぬぞ!』

幾分頭めいたのがいふ何れも聲をひそめた忍び聲である

靜かに／＼物腰振舞に到るまで氣をつけるやうにしてゐるのだがそれは怪しい物音となつて、屋內の九平太の耳にひゞくこととなつたのだ

ガラッ!と雨戶が內から押し開かれた。と俄に射し出す一條の燈影。雨が凄いほどハツキリと燈影をなゝめる

『あゝッ!御木本だッ!』
『サテは氣づかれたか?』

一同は植込みの中から彼方をうかゞつてゐる

幸ひに木蔭であるし、それに風雨、強い闇だ、此處まで光りがとどくやうな事はあるまい

一同はらつと息を殺して御木本の樣子をうかがつてゐると

『怪しい奴、彼方の塀際である』

九平太の刺すやうな聲が雨の音に混つて飛んで來た

愈よ感づかれたか少しく始末が惡い、今直ぐ見つかつてはこちらの戰法に狂ひが生ずる、といふのは未だに染香の動靜が知れないからなのだ、さは云へ、或はかへつて見出されて彼等と斬り結ぶのもよいやうにも考へられた

それはその騷動につれて染香が出て來るかも知れないと考へたからである

然し、名にし負ふ神風組の本陣へ、僅かな人數で押込んでゐる我々、鬪ふとなればその苦鬪のほどは察しられた

が、それに依つて士氣をひるがせる彼等ではない斷つて／＼斬り捲くるだけの用意と覺悟とは、十分に出來てゐるのだ

と、九平太の肩のあたりへひよいと浮かび出した一つの顏、それが九平太の耳に何事かひそ／＼と私語く樣子、九平太の顔が幽かに笑みこぼれる

『ヤイッ!鼠賊共、何用あつてみどもの邸へ推參したか、次第に依つては其分には捨て置かんぞ、やい!神風組の本陣と知つてか、それとも……』

雨戶が一時に二三枚バツト押開かれた。見ると燈影に浮かび出した十數人の人影、何れも身ごしらへ十分のいでたちである

『ない!面倒なッ!』

と叫ぶと見る間にその內の二三人は刀を拔きつれて雨の庭へバツと躍り出して來た。それは佐吉等の鬪心を掻き立てるには十分であつた

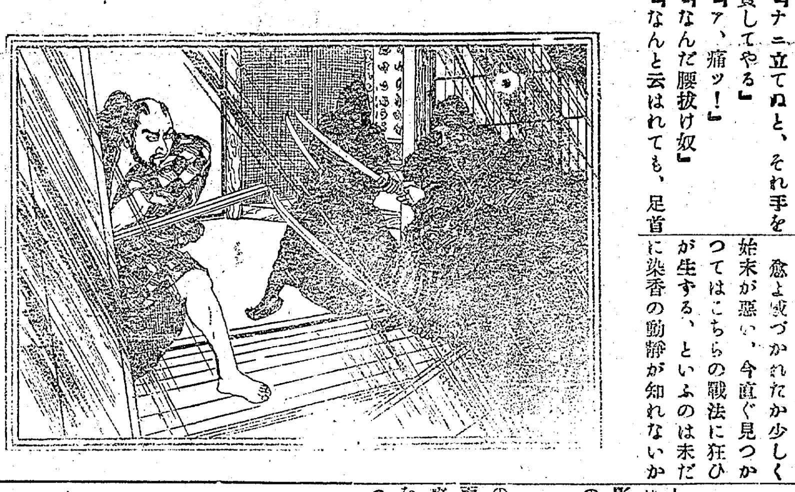
『何糞ッ!』

『各々油斷めさるな』
『離れず』
『敵劍を散らして受けるのだ』

互にはげまし合つて木蔭を押し分けて進み寄る

『あはゝゝゝ、たうとう姿を現はしあがつた』それッ!、一氣に斬り伏せてしまへッ!』

九平太の聲がおほひかぶさるやうに響いた



刀劍研磨
白鞘調製
刀劍把卷
刀劍買入
研師 翠光齋
主 船生四郎
平町十五丁目二六大町通り

廣告

最も新らしきショールは
紳士型 五・五〇
ファー中折帽 特賣
中野洋品店
電話 二・平

旭屋一六銀行
當分夜間九時迄取扱
平町三丁目
旭屋商店
電話四二五番

耳、鼻、咽喉科
氣管食道科專門
平町南町（電一〇七番）
大和田醫院
大和田郡司
（自炊の便あり）

貸切ノ御用命ハ
ゼヒ三井自動車部へ
電話六八五番
乘合は 好間…合戶…澤渡方面行

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

氣管、食道科、
耳鼻、咽喉科、專門
（入院隨意）
平町南町
增田耳鼻咽喉科醫院
（元眞木辯護士跡）
電話 四八二番

お醬油は……ヤマフル
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番 本店二七番）
味噌 醬油
たひら正宗
鰹節 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

高久病院
平町田町（電話五三一番）
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹
內科 外科 耳鼻咽喉科 小兒科 花柳病科 レントゲン科

產科 婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 玄番彌一
入院隨意 病室完備
木村病院
平町新川町十九番地
電話 一六四番

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社特約店
關彰商店平支店
電話 六一番
本店 水戶線下館驛前（電話五五番）
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三）（電話八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
◇海上給油及油槽所
久慈濱、大津、平潟

暖モノ、季節ニ相成マシタ
皆樣の平樂も此の度美給のサービス。
共に平樂の特製調理致します。
カキ貝料理
平樂シチュー 特製ランチ
鳥牛豚ナベ類……定食
近々中に支那料理も始めます。
平町二丁目
平樂亭
電二九六番

現行の税金に惱む際 飽迄道路負擔金に反對
郡下自動車業者大擧出福

縣自動車協會石城支部幹部會は昨廿七日午後一時から平署會議室に開き縣が九年度新規財源として提案した營業自動車に對する道路損傷負擔金撤廢について協議の上明廿九日縣農會樓上で開かれる本縣自動車協會臨時總會に平町より約二十名の當業者が出席極力撤廢の運動をする事になつたが同負擔金は自動車一臺につき約二十圓宛を徴收せんとするもので現在本縣乘用車一人當り年額六圓の課税で乘合普通一台(五人乘り)年約三十圓の本税と二十數圓の市町村附加税と合計六十圓近くで相當過重な負擔なので飽迄反對の氣勢をあげる事になつたと

納税異議 口頭審問 解決遅延せん

平町新川町中野勇吉氏が提起した七年度戸數割賦課の第三回口頭審問は既報の如く來年二月一日開かれるが此程の第一回審問に於ても一件書類百數十枚の説明を濟ませた丈けで閉廷被參加平町山野邊町税主任も一昨日の縣下町村長委員會に來平した縣地方課丹野政人氏とも打合せの上目下證據書類の作製に大童であるが一兩日中に纒るので出來次第發送する事になつたが問題が極めて複雑して居るので解決迄には相當の日月を要するであらうと

磐中ラッパ隊養成
戸山學校譜に改正 近く分列式擧行

磐中では從來校旗國旗及び長上に對しての敬禮喇叭は陸軍所定の譜を用ひて居たが此程軍部からの通牒により戸山學校軍樂隊制定の樂譜を用ふると共に一、二年生に喇叭隊を組織目下同校喇叭手指導の下に練習中であるが現在では小學校にも同隊が組織されてある關係から目覺しい上達振りで大井川配屬將校も喜んで居る尙對抗發火演習も過ぎたので近く分列式を行ひ極力養成する事になつたと

菊田聯合農産品評會
けふ賞品授與式擧行

第三回植田、錦、山田村農會聯合農産物品評會は二十五日より三日間、菊田實業學校で催されたが一、二等入賞左の如く三等四十四點四等五十七點、合計百四十八點であり今廿八日これが賞品授與式を行つた

(一等) 俵米—楢田啓(植田)同—小野長三(錦) 小麥—鈴木半次(植田)大根—齋藤吉(錦)葱—小宅時代(同) 牛蒡—永山直敎(山田)柿—吉田爲正(植田)鷄卵—嵐正三(同)(二等) 俵米—鈴木平次(同)同—高木留吉(同)同—鈴木英次郎(同)同—助川熊太郎、同—橋本又吉(錦)大豆—六河原宣治、小豆—鈴木利男(山田) 大根—吉田淺次郎(植田)同—澁井市之助、同—赤津彦夫(錦)人參—小宅勇次(植田) 牛蒡—正木定巧(同) 葱—小宅調造(錦)牛蒡—下山田道(山田)柿—鈴木末吉(植田)同—小宅勇(同)蕎麥—蛭田倉之助(山田)鷄卵—古川淸司(植田)叺—高木正朗(同)

平町軍人發著

平町の本月末入營除隊兵左の通りである

(入營)二十八日午前九時一分大館小柳安之介朝鮮咸興步兵七四聯隊、二十九日同長橋小野正二(同)三十日午前八時十九分三丁目岡時安仙臺輜重兵二聯隊

(除隊)三十日午後三時十九分研町金成鵬太郎、四丁目松崎喜一仙臺步兵四聯隊

陣容を新にして 湯本婦人會活躍
近日中事業協議の總會

湯本町愛國婦人會では最近會の内容を刷新し新會員を募集することゝなり幹部の詮衡中であつたが總會長には石川町長夫人副會長以下幹事十三名、有功章會員五名、特別會員四十九名、普通會員二百卅五名 合計二百八十九名の大世帶となつたので資金を擴充し一層基礎を確實にすることゝなり町内有志から寄附募集中であつたが△五百圓矢吹才一夫人たま子氏△五十圓吉田恭平氏夫人きみ子氏△同馬目隆義氏夫人のぶ子氏△同吉田宗雄氏夫人まつ子氏△同大貫ふみ子氏計七百圓の寄附金が出來たので同會では近く盛大に總會を開き今後の事業方針について協議する筈で婦人達の活躍が期待されてゐる

渡邊村更生を急ぐ
金肥節約の宣傳に大童

本年春村内有志より設立を見た渡邊農會金肥節約自給肥料改良増産實行會では從來自給肥料の改良増産を計るを以て農村經濟更生第一步として右に關する實行委員數名を擧げ

△實行事項(1)紫雲英の栽培(2)畑作緑肥の増加(3)天然肥の利用増進

更に自給肥料取扱として

1、家畜の糞尿塵芥肥料取扱價値の擴大 2、草木灰、木炭肥の取扱等

右諸項に亘つて肥料の改良を奬勵してゐるが成績大いに擧がりつゝあり同會では更にその主旨徹底を計ることゝなりチラシパンフレットを作成委員が各農家を訪れ改良の主旨普及に大童になつてゐるが農家經濟の上から成果を期待されてゐる

川前道路竣功檢査

經費二千五百圓で工事中であつた川前村匡救道路改修工事は今廿八日竣功したので小林土木監督所長は明廿九日竣功檢査に出張する

公傷消防手表彰

箕輪消防組消防手新妻重春氏は去る四月十九日職務從事中傷痍を受け此程山本財團法人消防會長より表彰狀と共に金一封を贈られた

圖書入賞兒
第三祝賀展覽會

第三校増築祝賀展覽會は廿五日より今二十八日放課後迄一般に解放したが入賞者左の如し

(圖畫)一年—清野質昇、福本寅雄、伊藤禮子、佐久間雪子 二年—丹野皓佐久門正、鈴木健三、杉本正、瀧口友人 三年—澄川欣司、阿部愛子、田中フミ子、飯澤キヨ子 四年—鈴木高彌、井上明三富安子 五年—志賀啓作、金成、關根セキ子 六年—佐藤進、諸橋富彌永山誠也、井上和方

(書方)二年—大越啓行、丹野皓司、吉田良次、杉本正、鈴木秀直、鈴木建三、三森孝子、布施敏子 三年—入江壽一、菅原誠一、竹村弘、松崎喜好、松崎幸子、橋本克子、今田美代子、佐藤榮子、五十嵐枝子 四年—吉田直一、藤田信藏、寺門武彦永山佳子 五年—竹村彌實、松崎惣兵衛、今田實、白土貞子、新妻ハル子、張文子 六年—諸橋實彌、荒四郎、平野井理造、鈴木省子、井上和子、澄川ケイ子

低利資金申込み
八十名二千四五百十圓 目下借替に取扱中

平町の中小商工業者中昨今兩年度の低利資金借受け者は四百名三十萬圓で內本年度中の償還額は二萬二十四圓で元利支拂者にはその六割を融通する事になつたが昨日迄の申込みは八十名二千四百五十圓であつたと

紹介所を惱ます 失業者雪崩れ
今年も漸く其季節迫る

寒さに向つて南へ〱移動する浮浪勞働者の群は石城地方へも少からず入り込むので職業紹介所では樺太北海道歸りの消化に就て早くもその準備中であるが今年は炭界の好轉なども各方面に知れ亘つて居る關係から例年以上入り込むものと觀て各方面に手を配つて居ると

共濟會救貧該當者 昨年より增加か
區長の手で調査進行中

平町共濟會では歳末救貧の爲目下各區長に依賴調査中であるが昨廿七日迄の報告既に左記十二世帶三十三名で未調査の鎌田、立町、仲間町方面の勞働者街を入れると、或は昨年以上の數に上るではないかと觀られて居る

	世帶	人數
田町	一	二
北白銀	八	二一
月見	二	四
北目	一	六

鐵道卒業式
平機から七名

鐵道教習所卒業式は今二十八日擧行されたが關係左の如し

專修部二十六回機關助手科水野正、柴田運二、新妻義武、齊木實、二十七回矢吹武、佐藤喜一、湯田武濟

郡下馬匹入賞

縣畜産組合聯合會主催役馬共進會は廿三日から郡山市開成山に開催、出陳馬輓馬四十頭、農馬卅八頭、合計七十八頭で審査の結果卅九頭入賞、內本郡關係は左記の如く輓馬二頭でこれが褒賞授與式は廿六日午前十時から知事代理赤土內務部長臨席擧行された

◇輓馬『二等』マキフヂ(三坂村大谷忠松)『四等』大和(三坂村大字下三坂字仲居草野豊治)

原告の要求に對し 耳傾けぬ局側
貯金拂戻、紛紜續く

既報—高久村下高久前の內鈴木太吉が三宅仙臺遞信局長を相手取り永野辯護士を代理人として平支部に提起した郵便貯金千五百圓の拂戻請求事件の準備手續きは昨二十七日平支部香西判事係りで開廷、永野辯護士から原告次男房吉妻ツルに拂戻しの機限あるものと過信したのは平局の落度であり前例によつて拂戻しの義務ありと主張したに對し戸石局長は郵便法によつて義務しと論じ結局來月十一日續行辯論に移る事になつた

火を放たれた 主家にも言ひ分
老仕立職今日送檢

十八年間勤めた解雇手當二十圓が不足で平町一丁目まる屋足袋店齊藤喜代治方に放火した本籍耶麻郡猪苗代町生れ當時平町仲間町居住仕立職桑原寅吉(六二)は平署川島司法主任係りで取調べを進めて居たが今廿八日午前は平檢事局三堀檢事が平署と打合せ午後送檢されたが同人は主家に在る間から身持ちが惡く解雇の際七十圓の借越を棒引にれた上改めて買子になつて十數圓の品代をも支拂はずにゐたものであると

陪審員抽籤

平町では明二十九日午前十時から町會議事堂に於て陪審員二十名の抽籤を行ふと

防犯獎勵應募

第二校では縣警察部刑事課募集の犯罪豫防に關する標語及ポスター圖案に應募せしむべく兒童を督勵中であつたが昨二十七日級毎に標語五點、圖案二點を取纒め送付した

通話區域改張

平局では去る廿六日より左の如く市外通話區域の擴張をした

茨城縣眞壁郡門井局三五錢、栃木縣鹽谷郡熱田局二五錢、同那須郡荒川局一五錢、埼玉縣入間郡大家局七()錢

兒島巡査表彰

小名濱町定西駐在所勤務巡査島鶴吉氏は横領詐欺犯太田木逮捕の廉により此程畑山知事より金一封を添へ表彰された

第二校清掃

第二校では今二十八日全校各教室及び便所等の整理掃除を行つた

三小學事務協議會

は今廿八日午前九時より第三校で開いた

五一五演說會

平町世界館では二十九日午後六時から廣田重太氏の五一五事件の大演說會を催すと

磐中野外演習延期

既報昨日行はれる筈であつた磐中四年生の野外演習は雨天の爲め延期となり來月四日下好間中好間方面で石田、遠藤敎官指導の下に行はれる

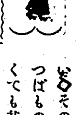
平館は日活專門 世界館は松竹と新興
上映もの統一さる

平町の映畫館は從來東京本社との賃貸關係から統一を缺いて居たが此程要金關係も正式に纒り明後三十日から平館は日活、世界館は松竹、新興キネマの映畫のみを公開する事になつた

誤吒府

既報—女と見れば怪しからぬ振舞ひをするので目下平署留置場に監禁されて居る湯本の色情狂佐藤長吉(四三)君——今日は朝から『綺麗なお方にやワナが……知つてしまへばそれ迄よ!知らない內が……』と鬪脫けた大聲で民謠一くさりを放送して居たが係官に叱られると『……でも癪にさわるからよ!』と一時は靜まるが間も無くハシヤギ出すなど署員ホト〱閉口の態である

艶罪黑白



◇低能だと云はれて『オダテナサンナ』とむづかゆい表情をした發者があつた、そうだが今日では假令インチキにせよ女子大學出身なんてのが南町に出現する世の中だから凄まじいゞ◇その女大出がまゆつばものであつても無くても其の詮議立ては當分御あづがりとして今度一兩日中に品澤から縣立磐城高女出身卽ち制服の處女と云つた處がデッューするそうだ、姿腹の處女だつて聞き違へちや困るよ◇例のお經さん、けふは新聞關係あすは炭鑛方而と迷夜の送別會攻めにへトへトになつたそうだが愈々來月二日の何時かで、驛頭多數の見送りを受け斷然帯で行くよ仙臺石の巻イ、いさりん、すかどんだつて、何だ丸で磯節ぢやれえか◇新田町のなか家で現代的な一ぱい屋開業、酒は白菊の生一本。人らはい入らはい。との事である。○……○

職業紹介欄

△求人 △女中—委細面談(平町某)△小店員—十五六才本人面談(江名町某)△鍛冶工—三十才迄日給一圓六十錢△商店雜役—二十才前後(某)△土工夫—四十五才以下日給七十錢位△仕立職人—二十五才十圓△炊事夫—五十歲迄月給五圓位

△求職 △小使—高三修△外交員—商一修(磐崎某)△出前持—高卒△會社小使—高卒(內鄉村某)

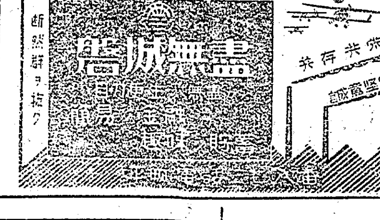
舊十月十二日　水曜　己亥　先負　建　壁宿　新十一月廿九日

諸判定總本部 東京市本鄉區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮館

▲一白の人 利じゆんを得べき日柄なれど大望は起さぬが吉▲二黑の人 決心を堅めたる上は猶豫せず實施するが吉▲三碧の人 計畫半ばにとんざを起し實行困難に陷り易し▲四綠の人 有名無實に終らんとする日期待を掛け難し▲五黃の人 困難な物の數ともせず奮起を續くるに吉し▲六白の人 運氣良好にして大抵の事は成就する喜あり▲七赤の人 仕上げを急げば粗雜になりて役に立ち難し▲八白の人 運途全盛の兆萬事進んで功あり交渉事成る▲九紫の人 神にも佛にも見放され萬事休するさ嘆の日

廣告

大藏省允許 磐城無盡



美味で評判の イワキサロン 平町電三五二

吉田眼科病院

貴方の御家庭に お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい 直に家政婦を派出します
親切 町寧…… 料金は極めて低廉です
姙産婦の御家庭 お留守居番
御病人の付添 年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二(電話(呼)六五二)
上原家政婦會 會主 産婆 上原通子

開業廣告
一、婦人子供 洋服教授 米國シャードル裁縫 ニユーヨーク裁斷 學校卒業
一、玩具、文房具、雜貨
平町驛前(新道通りマルカ書店跡) デパートストアー 酒井商店

景氣は良く成つた
此處に三十圓か、五十圓位の小資本にて、毎月五十圓から百圓以上の利益の擧る絕對に損をしない、確實有利な、而も年中無休にて至極高尙な營業があり。來りて實地に就き說明を求められよ時は今、活躍の時季躊躇して悔を後世に殘す勿れ、進步向上、奮鬪の士は早速來れ、人員に限りあり
姓名在社

生徒募集
磐城女子洋裁專門學院
入學毎月初日 (此の際入學者は隨時入學を許可す) ミシン無料貸與(材料貸與の方法あり)
奧樣方の爲め持に隨意科が設られてあります。毎日定期に通學の出來ない方々の爲の回數券制度……
平町白銀町十五番地 (詳細—學則—券二錢)

磐城共濟病院 電話六四一番 一二四番
內科 小兒科 院長醫學博士 石山謙郎
產科 婦人科 副院長醫學士 五十嵐雄二
外科 皮膚性病科 耳鼻咽喉科 部長醫學士 有馬勇二郎
X光線科 物理療法科 醫學博士 石山謙郎 技術員 石山彪
藥局 藥局長 吉本孝平
衞生試驗所 藥劑師 獸醫 高後利雄
事務長 鈴木寶雄
△診療時刻 午前八時より午後五時迄